

地域防災を担う決意を新たに

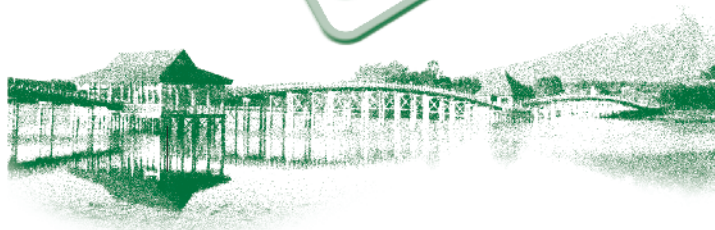
1月13日（日）、鶴田町消防団（下山正彦団長）が新年の出初め式を丹頂大通りで開催し、今年1年の無火災と無災害を願いました。

出初め式には消防団員や婦人防火クラブ員ら約300人が参加。各分団は、観閲者の相川町長から服装や姿勢の点検を受けた後、纏振りや分列行進を行い、地域住民の生命と財産を守る決意を新たにしました。

町国際交流会館で執り行われた式典では、昨年行われた第30回青森県消防操法大会「小型ポンプの部」で、準優勝を収めた山道中野分団へ青森県消防協会長表彰が伝達され、大性分団ら3分団へ鶴田町長表彰が、瀬良沢分団高橋友樹副分団長ら10人に町消防団長表彰が贈られました。



△寒さに負けず勇壮な纏振りを行った消防団員



あなたの地区の楽しい催しや出来事などがありましたら、役場企画観光課まちづくり班（内線262）までお知らせください。

りんご生産者が剪定技術学ぶ

1月5日（土）、町りんご支会連絡協議会（瓜田拓英会長）が、りんご剪定技術の水準を高め、安定的な高品質りんごの生産推進を図るため、宮本良一氏の園地（駅前通り）で新春剪定会を開催し、町内の生産者約130人が剪定技術を学びました。

剪定会では、県りんご剪定士の猪股政孝氏（平川市）が講師を務め、のこぎりやはさみを使って剪定を実演しました。

猪股氏は「型にはまらず、空間を利用していかにはいい枝を残すか考えましょう」「昨年までに剪定した部分を考慮して剪定しましょう」などと参加者に剪定のポイントを説明し、生産者は熱心に剪定技術を学んでいました。



△実際に剪定しながら生産者にポイントを説明する猪股講師

立ち上る火に手を合わせる

1月14日（月）、鶴田八幡宮において、お正月に飾ったしめ縄などを焼き、それらに宿った神様を還すことで、今年1年の無病息災・五穀豊穡などを祈願する焼納祭が行われました。焼納祭終了後にはお汁粉も振る舞われ、参拝客の体を温めていました。

当日参拝した人は、「今年1年家族や子どもたちが健康で、車の事故もないようにと祈願しました」と笑顔で話していました。

宮本充宮司は、「去年は地震など天災が多い年でしたが、今年は御代替わりの年でもあるので、災いがなく、いい年になりますようにと祈りました」と話していました。



△焼納祭に訪れた人たちは無病息災などを祈願していました

笑顔が溢れた芸能発表会

1月16日（水）、町健康福祉センター「鶴遊館」において、新春高齢者芸能発表会が町と鶴田きらめきクラブ（乗田勝雄会長）の共催で開催され、出演者が踊りやカラオケを披露しました。

成田副町長は、「笑う門には福来ると言います。今日が、皆さんにとって今年の幸先の良いスタートになることを願っています」とあいさつ。乗田会長は、「出演者は今日のために練習を重ねてきました。今日一日、楽しく、拍手で盛り上げてもらえれば幸いです」とあいさつしました。

出演者は練習してきた成果を披露し、約240人の観客が訪れた会場は、たくさんの笑顔と大きな拍手に包まれました。



△会場を大きく盛り上げたこまどり姉妹ならぬ「手間どり姉妹」

新しい窯でより良い作品を

町生きがいセンターに設置しているつるた焼きなどに使用される窯の老朽化に伴い、このたび新しく陶芸窯が導入されることとなり、1月16日（水）、神事および火入れ式が行われました。

神事は、町生きがいセンター陶芸部会（安田みつゑ会長）主催で行われ、成田副町長は、「普段何とも思っていない火や土が、皆さんの気持ちが込もった手によって形になっていく。そういう気持ちが町の文化の継承に繋がっていくのだと思います」とあいさつ。

神副会長は、「それぞれが持っている個性を大事にしながら、以前よりも良い作品を作っていきたいです」と話していました。



△神事で玉串を奉納する神副会長